

## 大阪学芸中等教育学校 「学問探究団 RYS」 活動レポート

### episode6 「ミッション・イン・ホスピタル2 ～看護師の1日を体験せよ～」

2012年8月3日(金) 加納総合病院にて

進路指導部

8月3日(金)に、大阪市北区にある加納総合病院で、6年生の3名が「1日看護体験」に参加してきました。患者さんや院内の様子を見学しながら様々な貴重な体験をしてきました。

まずは、白衣に着替えて院内を案内してもらいました。加納総合病院は18の診療科と8つのセンターと8つの病棟を有している大きな病院で、8階まである院内を看護師さんたちは毎日階段で何度も移動するそうです。(1回昇っただけで私たちは息切れ・・・)



患者さんが、自分の病棟・病室を間違えないために、階・フロアごとに床や壁の色が違っていたり、リハビリ用に場所によって階段の段差の高さが違っていました。



また、トイレの造りが特徴的で、扉の開き方はもちろん、中にはたくさん手すりがあって、車椅子でも出入りできるように大きな造りになっており、左右対称のトイレが常に二つ並んでいました。これは、右半身不随の患者さんでも左半身不随の患者さんでも使用できるようにつくられているそうです。

中に入ったまま出られなくなる患者さんもいるため、トイレはナースセンターから見える場所に設置されていて、扉につけてある札で患者さんが使用している

かどうかを常に確認できるように工夫されていました。

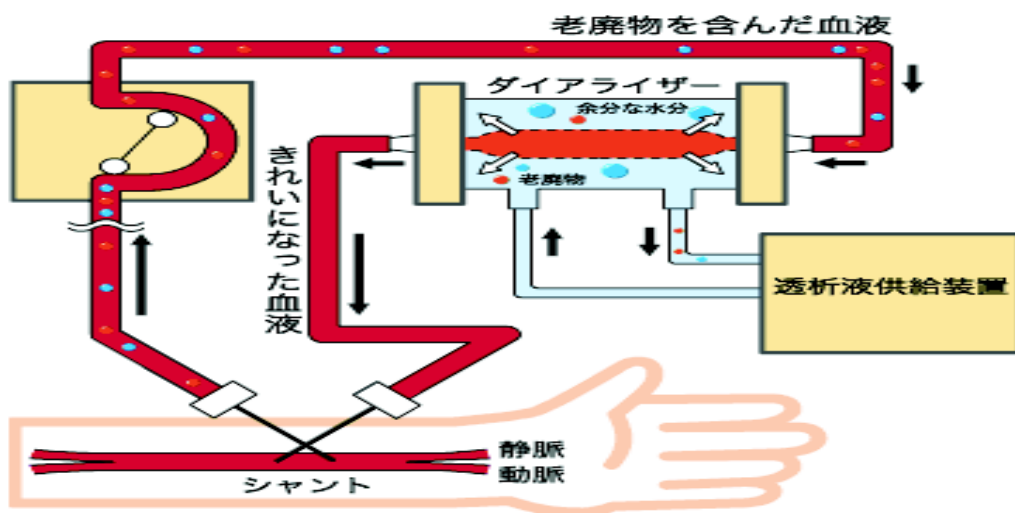


一般病棟(内科・外科・脳卒中集中治療・整形外科)166床、回復期リハビリ96床、療養病床106床も用意されているベッドが入院患者さんでほとんどいっぱい状態で、大部屋の他に、普通個室・特別個室・上級特別個室と、中にはなんと1日50,000円の病室もあり、そこは全て満室だったことには驚きました。



そのほか、透析室や調剤室、検体検査室も見させていただきました。

**血液透析**は、現在もっとも広く行われている透析療法で、血液を体外に取り出し、ダイアライザーと呼ばれる透析器（人工の膜）に通すことによって、血液中の不要な老廃物や水分を取り除いて血液を浄化し、きれいになった血液を再び体内に戻す療法です。血液透析では、血液を連続的に取り出し、再び戻す必要があるため、簡単な手術によって、前腕の動脈と静脈を皮下でつなぎ合わせ、シャントと呼ばれる血液の取り出し・戻し口を作り、そこに針を刺して血液を循環させます。通常月に12～13回通院し、1回の透析に4時間程じっと寝ていなければいけません。



1階にあるリハビリ・デイケアセンターには常にたくさんの方が出入りしていました。

リハビリルームには、日常のすべての動作のリハビリが出来るようにと、ベッドだけではなくキッチンや食卓、畳の部屋などもあり驚きました。



車椅子での暴走禁止！！



寝たまま乗れる車椅子

車椅子は想像以上にスピードを感じます。やさしく、ゆっくり歩くペースで押してあげましょう。

先程勉強した車椅子の押し方を思い出して、患者さんに食堂へ移動してもらい、お昼御飯の時間です。



私たちが食事介助をさせていただきました。

患者さんの中には口から食べ物を入れることができず、ベッドに寝たまま鼻からチューブを入れたり、胃ろうチューブから栄養を入れている患者さんもたくさんいました。

1日中寝たきりは、体にも負担がかかるので1日1回食堂に移動して、看護師さんや患者さん同士で団欒を楽しみます。



自分の心臓の音をきいてみたり



うしろのナースセンターではお昼のミーティング中



血圧の測り方も教えてもらいました



普通に歩けるってシアワセやな~

看護師さんの1日は本当に動きっぱなし…。体力のいるお仕事だということがよく分かりました。

最後に、今年の春から看護師になられた先輩からいろいろなお話をさせていただき、さらに夢に向かって頑張る気になった3人。目標に向かって受験勉強を引き続き頑張ろう！！

加納総合病院の皆さん、お忙しい中本当にありがとうございました。



## 1日看護体験をしてみて・・・・・・・・

☆ 今日1日看護体験をしてみて、ご飯をチューブで身体に直接入れたり、透析をしているあいだ何時間も寝たきりだったり、私たちが普段していることができなったり、自由にならないことが多いのに、私たちが話しかけると笑顔でこたえてくれて「頑張ってね」「ありがとう」と言ってもらえてとてもうれしかった。1日の体験だけではできない事も多いし、わからないこともあるけど、実際に患者さんと接してみて、看護師になりたいという気持ちがさらに強くなった。

☆ 食事介助するとき、スプーンの角度で患者さんの食べやすさが変わるし、ご飯を食べるペースも量も患者さんによってそれぞれなので、患者さんの表情や態度を観察したり、考えなければいけないことがたくさんあって難しかった。

☆ 患者さんと話すような機会は今までなかったので、とても新鮮でした。看護師という仕事は相当大変な仕事であることを思い知らされ、頑張ろうと思えました。

返事の出来ない患者さんと触れ合い、意思の疎通が出来るようになったら素晴らしいことだと思います。

私も頑張って大学に受かって、そんなやりがいのある仕事ができるようになりたいです。